

会議記録

会議名称	令和3年度第3回健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会	
日時	令和4年2月1日（火）午後6時30分～午後8時30分	
場所	東棟6階 教育委員会室	
出席者	委員	7名 ----- 松尾委員、高田委員、植田委員、杉尾委員、芹沢委員、鳥井委員 野田委員
	事務局	9名 ----- 地域活性化担当部長、スポーツ振興課長、計画調整担当係長、 施設管理係長、事業係長、施設管理係主査、担当者3名
傍聴者	0名	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・健康スポーツライフ杉並プラン（素案） （杉並区スポーツ推進計画 令和4年度(2022年度)～令和12年度 (2030年度)） ・チラシ（日本を代表するパラアスリートと匠のクロストーク～あなたの知らないパラスポーツの世界～） 	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 健康スポーツライフ杉並（素案）について 3 今後のスケジュール 4 その他 5 閉会 	
<p><会議要旨></p> <p>1 開会</p> <p>○事務局 スポーツ振興課長から挨拶</p> <p>※進行に当たっては、委員の一人にコーディネーター役を依頼し、了承を得た。</p> <p>2 議題</p> <p>3 今後のスケジュール</p> <p>健康スポーツライフ杉並（素案）について</p> <p>○事務局 健康スポーツライフ杉並（素案）、今後のスケジュールについて説明。</p> <p>○委員 計画案の「スポーツの捉え方と意義」について、杉並らしさを表現する場所であるかなという感じがしています。「スポーツの捉え方」に「気晴らし」、「遊び」と入っているが、「気晴らし」、「遊び」よりは、もう少し根源的な語源だと思っており、そこをもう少し杉並らしさに結びつくような表記にした</p>		

ほうがいいかなと思っています。

また、育成強化と普及は両輪だという話がよくありますが、大会を含めて競技力向上というのが必要だと思っている。その部分を体育協会が担いながら、大会の運営や設備等のハードの面に関しても計画に記載することで、競技スポーツの継続について取り組んでいくべきではないでしょうか。

SDGsについては、確かにスポーツというのはSDGsのツールとしては良いが、もう一步踏み込んだ形で丁寧に入れてほしいなと思います。ツールと書いてあるけども、実際杉並区としてSDGsをどう取り組むかという問題がある。SDGsと言えばもうそれで良いという話が多いので、もう一步踏み込んだ形で具体的に入れて、杉並区全体としての流れの中でどう取り組んでいくのか記載していくこともあるだろうと感じました。

あともう一点、10年先を見たときに、運動やスポーツを習慣的にしている子どもたちの割合が85%とあるが、具体的な施策を見たときにイメージが湧かない。具体的な施策では、年に1回とか、月に1回と限定しており、これは9年間このままの状況でしょうか。10年後に団塊の世代が80後半になっていく中で人口の構成も大きく変わって、10年後は景色が変わる。今年・来年の施策ではこれでは良いと思っているが、10年先になると「それは少し厳しいのではないか？」という気がする。本質を捉えながら、3年ごとに変えていくなどしていく必要がある。

また、この計画の全体をまとめるのは区のどこかというのが見えない。誰が横串を刺し、この目標値に向かって調整するのでしょうか。

○事務局 全体としては、スポーツ振興課が関係部署と連携しながらまとめていきます。また、区の総合計画が概ね3年間で改定されるため、それに合わせて必要な事業については精査を行い、見直していく予定です。

○委員 SDGsについては、グローバルな大きな話の中で、スポーツではどういう形で具体的に展開できるだろうかという、区全体としてもSDGsは大事にされているところですので、スポーツに寄った形で書けるところを書き込んではいかがでしょうかというご指摘だったように思います。

また、スポーツの普及はあるけれども、育成強化の部分についても触れておく必要があるのではないかとご指摘だったかと思います。

それからスポーツの捉え方については、様々議論はありますけれども、スポーツ基本法、それからスポーツ基本計画、その大きな流れとして、今の書きぶりとしては齟齬があるところではないですが、それは様々なお立場からのご意見があるだろうと思います。

○委員 感想だけですが、全体を拝見して、今回は障害者の方に対して新規事業を計画するなど、いろいろ増えてきたので良かったと思います。

○委員 障害者の方のスポーツに関しては、大人の障害のある方向けのことが書かれていると思いますが、障害児に関しては書かれていましたか。

○事務局 「子どもを対象とした取組」に含まれていますが、障害者スポーツネットワークの推進などは、大人のみを対象とした事業ではなく、取組が対象をまたがることも想定しています。

○委員 障害児の子たちの課題もある。インクルーシブ教育が進んでいる中で、授業は受けられるが、体育は見学の障害児がいまだに多くて、私の知り合いの弱視の子でも、サーブの時だけ参加するという参加の仕方をしている。学校教育の中で体育という授業の目的を考えたときに、サーブだけするというのは本当に体の発育の目標に達成するのかなと思う。

それと、障害者スポーツに関しては、障害のある方がスポーツに参加をするほうにフォーカスされるが、将来的には障害がある方が一区民として支える側に、当たり前においてほしいなと思った。運営側とかボランティア側にいるのが当たり前の状態が描けるような形がいいかなというのを思いました。

もう一点が、障害者スポーツというフレーズが、障害者スポーツというスポーツ名になっている。パラスポーツとかアダプテッドスポーツみたいな。障害者スポーツという名前のつけ方は気にしたほうがいいのか、しなくても全然いい点なのかは判断がつかないですが、私の中ではちょっと気になるところです。

○委員 障害があるからといって体育の授業を見学させられてしまうのはおかしいということで、今回のスポーツ基本計画の中で見学をなくすということが明記されております。今委員がおっしゃるように、様々なイベントで見学する、あるいは参加できないということはなく、いつでも参加できるようにしておくことは明記する必要があります。体育の授業についても見学ゼロに向けて取り組んでいくということを言いたいが、ここで書けるかどうかは部署が違うというお話はありますね。

○事務局 全ての方が同じように教育を受けられるようにするというのは、教育委員会を中心に取り組んでいる目標でもあります。

○委員 関係する部署には今のご意見はお伝えいただき、できるだけ反映していただけるようお願いします。

また、障害のある方が多様な主体として、「する」「観る」「応援する」「支える」というスポーツ文化を享受するというのは、今回の理念だと思います。そういった意味でも明言できるところについては、明示しておくことのご指摘かと思いました。

それから、「障害者スポーツって、一体何を指すの？」ということですね。よく「ボッチャは障害者スポーツだよ」とおっしゃる方もいますが、それはスポーツの種目の一つです。障害のある方々がスポーツに親しむ、スポーツ文化を享受するということが基本的な理念であるということかと思っています。ここを種目に置き換えられてしまっただけはおかしいというご指摘かと理解いたしますが、そこは、明記できるなら明記するし、ご説明いただくときにはそこを明確にしたほうがよいというご意見ということで理解してよろしいでしょうか。

○委員 はい。

○委員 中学校の青少年委員は、中学校区の地域教育連絡協議会の中で、地域でお母さんなどが孤立したりとか、置き去りにされたりしないように、地域で網目を張っていくという役目を担っております。

例えば、先ほどのボッチャの講習を私たちも受けたことがあり、年齢層を超えて、すごく奥が深くて楽しいが、継続がなかなかできない。あと、ふれあい運

動会やファミリー駅伝、中学生駅伝等も関わらせていただいておりますが、縦割りといいますか、地域でやっていることを横が知らない。せっかくスポーツを通して緩やかな絆が育まれるはずの横の地域のつながりという連動が、すごくいい取組をしても知らないことも多いです。

あと、利用者団体協議会が各小中学校の施設を借りてスポーツをすることも、仕組み自体はすばらしいと思うのですが、何しろほかのことは知らない。例えば地域教育団体の中にスポーツ団体も加盟して共有等ができるかと連携が取れるかと思えます。消防団との交流や保護司、地域子ども食堂という交流もあり、スポーツがあったら連動していけるなどと思えますが、ただその手段は何なのかと考えてしまいます。

- 委員 地域力が杉並らしさの一つと述べられていましたが、うまくつなげていくような手法、方法というのを明記しながら進めていく必要があるというご指摘かと思えます。
- 事務局 地域と地域をつなげ、人と人とがつながっていくことを将来像の中で目指しており、そのような取組を、プランを通して進めていく必要があると認識しています。
- 委員 杉並区のスキーの大回転の大会が菅平であり、そのときに20代の部門に出て準優勝しました。その時、私ももう一人しか出なかったのですが、すごくうれしかったです。それが忘れられなくて、自分の成果の先にそういったイベントがあると、そのときにみんなに誘い合いますよね。「今度、出ない？」という感じで個人的には、そういう大会があるといいなと思いました。
- 委員 どうやってスポーツに関心を持ってもらうかということに対しての取組は手厚いのですが、実際にスポーツをやっていくと試したくなってくる。「試す」という場をつくっていくことも重要ではないかという指摘かと思えます。
- 委員 スポーツボランティアという言葉があって、このアンケート調査によると、「実施していない」というのが大多数です。というのは、スポーツボランティアとはどういうことなのというのが分からないからではないかと思えます。スポーツボランティアの具体例を伝えるなどする必要があり、何か一般市民には理解しにくい言葉かなと思いました。

また、これからのスポーツを盛んにしていくというために、無関心タイプをどうやって参加させていくのが一番の課題じゃないかと思えます。スポーツ人口を増やすというのも、無関心タイプを掘り起こさないといけないのでどう考えていくかなと思いました。

それと、子どもと大人と障害者と、そういう区別がありますけれども、高齢者のところが抜けているかと思えます。先ほどお話があって、〇〇関係はスポーツ振興課です、〇〇は保健サービス課ですとなっているけれども、高齢者を扱っている行政のポジションもあるわけです。そういうところの働きかけで、俗な言葉で言えば老人クラブ、いきいきクラブで年に何回か、ペタンクの杉並全体の大会をやったり、ユニカールをやったり、グラウンドゴルフもやったりしている。そういったところの活性化も必要ではないかと思えます。老人クラブとしては、何しろ会員を増やそうということで、2年ぐらい前から、会長が頑張っていて、各地域の老人クラブで会員が少しずつ増えているようです。高齢者福祉担当課と連携しながら進めていったほうがよいのかなと思えます。

なかなかスポーツに溶け込めない方というか、取っ掛かりがない方に向けて、各体育館で、様々な種目の一般使用の枠があると思います。例えばテニスやバドミントンをやっており、200円2時間などの使用料を払って、誰でも自由に遊べますし、初心者も指導しますという制度だったと思います。競技種目の方は、よく分かりませんが、レクリエーション種目のところでは、人集めに苦労することがあります。何とか人数を集めているということもあるかと思うので、一般使用の枠の運営の仕方を一工夫していただきたいと思います。

○委員 「スポーツボランティアとは何か？」という話です。笹川スポーツ財団でボランティアに関する調査委員をしていた際、スポーツボランティアを行っている割合についてアンケートを取ると、大体数字が7から8%から動かないので、おかしいと思いました。そこで、一般的にはスポーツボランティアとは言わないけれども、ボランティアであるに違いないという事柄を幾つか立てて、質問をしてみました。例えば、子どもの送り迎えとか、お茶汲みとかも含めて、潜在的なボランティア含めて調査するとトータルで20%近くになりました。定義の仕方によって、随分その辺りの数字は変わってくるので、具体的に明記しながら、広めにスポーツボランティアを定義していこうというように私は今聞き取ったところでございます。

○委員 例えば、「スポーツボランティアとは、こういうことも指します」というような用語集というか、説明書きがあってもいいかなと思いました。

○委員 例えば、スポーツ教室で指導するというのを、楽しんで運動・スポーツをしているのか、あるいはボランティアなのか、その辺の捉え方も人や状況に応じて違ってくると思います。

○委員 無償制と言っていたものを、お金をもらったからボランティアではないというわけではない。皆さん方のために尽くしてくださる方も含めましょうというのは当然いろんな概念や規定があって、できるだけ広めに捉えていくことが、大事であると思います。

それから、高齢者についての記述をもう少し厚くしてはどうかというご指摘もありましたけれども、もう少し強調すべき点などご検討いただければと思います。

一般使用について事務局からコメントはありますか。

○事務局 一般使用の運用については、参加者の人数だけではなく、ニュースポーツの普及の観点などを含め、指定管理者や協会の方などと相談しながら枠を設定しており、今後ご意見を参考にしながら運用してまいります。

○委員 区民調査について、このボリュームにまとめていただいて、大変なご苦労だなと。いつもながら分かりやすいなと思って、拝読させていただきました。私からは、ここをこういう表現したほうがのではないかと思ったことなどをご紹介します。

2ページ「子どもの体づくり」4行目ですが、文科省と同じように、「スポーツを通して公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う」ことで、「豊かな人間性を育む」と表現した方がいいかと思います。挑戦することで、それが育まれるのかというのは違和感があるので、スポーツの持っている意味としては、公正

さを学んだり、規律を学んだりということを素直に言ったほうがいいのではないかと印象を受けました。

また、スポーツボランティアの指標について、目標値を25%としたことについての説明がない。SDGsについて触れるのではなく、「ボランティアを大切にす杉並」として数字を高く掲げて、みんなでやっというのを入られてもいいのではないのでしょうか。

5ページ下の「子どものスポーツや遊びの推進」は、運動遊びって運動にしたほうがいいのか、遊びにしたほうがいいのかは検討の余地があるかと思いました。

13ページ下の「文化として根付くことを目指す」ことではなく、日常生活に溶け込ませることが杉並区の役割だと思うので、もっと柔らかく、「スポーツが、人生を豊かにする日常生活の一部となることを目指す」というぐらいでいいのではないかと。

14ページ「LGBTQ」の表記は、「性的少数者」でよいのでは。

15ページのコロナについては、継続していたスポーツや運動をやめた人は高齢者が多い。やめた人にどうやって戻って来てもらうのかと、違う運動にトランスファーしてもらうとか、都市部に多い傾向にあるので、きちっと捉えてやっていくほうがよいと思いました。

21ページの応援するスポーツの推進は、大人向きのことが書いてあるので、もっと後ろに書いた方が言いたいことをすっきり言えるような気がしました。また、ボランティアの参加機会をつくることをこの中に入れてもいいのではないのでしょうか。応援することを楽しみ、活動を支えることの楽しみと出会うということも含めてもいいのではないかなと思います。

その下の学校運動部での合同部活動については、渋谷区のモデルがありますが、杉並がもっと前にやっている取組があるので、それもぜひ入れていただきたいかなと思います。

22ページ高齢者向け事業は、健康推進課の取組などもうまく連携してニーズにマッチした事業をやっていくというのをうたわれたらいいと思いました。

障害者のユニバーサルタイムを高齢者にも入れてはどうでしょうか。新しい活動、やめていく人もいるけれども、新しく参加して楽しめる活動を提供していきますというのが杉並らしくていいのではないかと。様々なものに出会えるような施策があるといいと思いました。

最後に33ページの「スポーツボランティアをした人の活動割合」の25%は目につくので、「お世話を楽しく杉並スポーツライフ」というような補足を入れてもいいのかなと。

○委員 コロナでスポーツをやめた人の指摘がありましたが、一方でスポーツを始めた人たちもいるので、その辺の見合いのところも含めて整理していただければよいかなと思います。

また、スポーツボランティアについては、用語集ではないですが、今回使用したのはこういうことですよと、説明をいただいてもよいかもしれません。

○委員 最も大事なものは、進捗管理とその体制で、概ね3年間で検討するというのを明確にできるのであれば書いておいていただいたほうがいいかと思います。それから、連携をしっかりと進めていきたいと思いますという時に、成人の人たちがスポーツを楽しむ際のベスト20のうち、8種目くらいは民間スポーツ施設が提供している種目です。計画を立てようとする、遠いものになりがちなどころはあるわけですが、住民からすると民間施設であってもスポーツをする場所には間違いがないので、いかに連携を図っていくことが大事ではないかと思います。

もう一つ、特別支援学校を卒業後に地元に戻っても、自分の居場所とか活動の場所を求めにくいという話をよくお聞きしますが、うまく地域デビューできるように進めていただくとありがたいと思います。

○委員 29ページに総合型地域スポーツクラブについて記載があるが、いわゆる学校施設の有効利用という総合型まではいかななくても、プチ地域クラブができていかないといけないと思います。そうすると地域のクラブが、それ同士で大会や交流を図っていくような形で積みあがって、最終的には総合型になっていけば本当はいいのだらうと思います。

○委員 杉並区では、学校開放事業における施設の有効活用と、学校運動部を地域の皆さん方等で支えていただく仕組みを、一体的に進めていこうというモデル事業を進めようとしています。最終的には子どもたちあるいは地域の人が、お互いに支え合うという空間をどう作るかというときに、学校単位の地域クラブみたいなものができてくれればいいのではないのご指摘は、杉並らしいなと思って、聞いていたところでした。

令和5年からは、土日の学校運動部活動を地域にお願いしようということが全国的に議論・展開されていて、学校利用者がお互いに使いやすい形を強化しながら、やがて卒業した子供たちもまた活動に参加して、その子どもたちを支えてという、一つのまとまりのあるクラブ化ができるかもしれません。杉並だからできる可能性は確かにあるというように思います。

○委員 それでは、事務局からコメントはありますか。

○事務局 貴重なご意見をありがとうございました。ご意見をどのように反映させるかを考えていながら、コーディネーターである委員と調整した上で、その結果を皆さんに共有する形で進めていければと考えています。

(今後の進め方について了承)

4 その他 (省略)

5 閉会